

田中家通信

全便所
全所備置



株式会社 田中家石材

VOL. 16

発行/株式会社 田中家石材
住所/彦根市高宮町108-1
電話/0749(24)5888
HP: <http://www.tanakaya-sekizai.com/>
Mail: info@tanakaya-sekizai.com

阿弥陀佛信仰

阿弥陀経には「千二百五十人の修行者を前にした釈迦が、阿弥陀佛は多くの仏を超えた法力を持ち、住まいである西方浄土は他に比べようがない程、美しくて素晴らしい国である」と言った。とあります。

阿弥陀佛は如来となる前(法蔵菩薩のとき)に、人々を救う四十八の誓願を立て、特に十八番目は「すべての人が、私の浄土に來たいと思ったときに、阿弥陀佛と十回唱えなさい、そのとき私は迎えに行きます。」と無量寿経の中で書かれています。

人々を救うのが務めであり私の導きにまかせなさいとおっしゃいました。そして曇鸞が「南無阿弥陀佛」と唱えることの方が重要だと説き、その後、善導が觀無量寿経の中で「どんな時でも一心に念仏を唱えることが正定」と念仏の大切さを説きました。日本では、法然、そして親鸞によって庶民にまで、阿弥陀佛信仰が広められ、浄土宗、浄土真宗の基礎となりました。

お正月です。お仏壇とお墓に手をあわせましょう。

お正月もお盆と共に本来、歳神様、ご先祖様(み魂)をお迎えし、楽しいひとときを過ごし、また帰っていくという日本古来の信仰に基づく行事です。

お盆のときにも申しましたが、お正月に里帰りをされたとき、お仏壇、お墓参りとは別に、もうひとつ大切なことがあります。それは、家族がそろって仏間のお仏壇の前でいっしょに、「おせち料理」を頂き、その団欒の中で、それぞれ旧年の反省と新年の抱負を述べ、近況報告し、特に先祖、故人の話を語り合い、共にお酒を飲み、食事をするのが供養になり喜んでもらえる大事なことだと思います。そして氏神様に初詣に行き、家族そろってお墓参りをされてはいかがでしょうか。

初詣の心得

参道を通るときの心得について

鳥居をくぐり抜けると、社殿まで続く道があります。この道を「参道」といいます。文字どおり参道とは「お参りする道」で、神さまの鎮まる所と人々を結びつける大切な道です。たとえば、一歩近づくと、神さまの鎮まる所へ一歩ちで進むようにしましょう。なお、鳥居をくぐる時には軽くお辞儀をするのがよいとされています。それから、参道の中央は「正中」といわれ、神さま

お正月あれこれ

注連縄のはじまりって

『古事記』の「神代卷天岩屋戸」の段には、天照大神が天岩屋戸から出た後、岩屋戸に縄を張り、天照大神が再び中に入って国中が闇につつまれることのないようにした、とあります。

この縄は「尻久米縄」と記され、これがしめ縄のはじまりと考えられています。稲わらには聖なる力があると考えられています。

平安時代には、宮中や貴族のもとで正月を祝う行事がすでに行われていました。現代のような装飾的なお正月飾りは、江戸時代に広まったと考えられています。粋を好んだ江戸庶民の風が、祖霊信仰と融合して、日本独自の正月飾りが飾られるようになったのです。

ちなみに、縄やひもを結界に用いて、神域と下界を分ける風習は、世界各地にあります。日本のお正月飾りのように華麗で装飾的な様式のもの、世界中どこにもなく、お正月飾りは日本が誇るすばらしい伝統文化といえるでしょう。



一年の『計』は元旦にありと云われています。

『人はこうあれ』

- 先祖を敬え
- 年忌、法事を忘れるな
- 神仏を敬い
- 年寄りをいたわり
- 子どもに優しく
- 家業に励み、他を羨むな
- 金は稼いでから使え
- 腹八分 何事もほどほどに
- 天災は いつか来る
- 覚悟をしておけ
- 人の苦勞は見ずに助け
- 義理、人情を忘れるな
- 自然の恵みを粗末にするな
- 福沢諭吉の言葉を紹介しました。
- 『計』の参考にされてはいかがですか。



我が家の家紋

◆藤紋 (ふじもん)

日本十大紋の一つです。

藤は風にそよぐ紫色の花弁がなんとも優雅な姿であるだけでなく、長寿で繁殖力の強い植物でもあります。

平安時代には既に衣服の紋様として使われていた記録があります。藤原の里を下賜された中臣鎌足の末裔である藤原一族がもちいた紋の一つで、藤原氏がとても栄えたことから、それにあやかる意味もあって、藤紋が普及していったとされています。紋の形状としては花弁が垂れた下がり藤が基本ですが、下がるという言葉を嫌って、上がり藤などのバリエーションも作られました。藤紋は花も美しいですが、家紋としてのデザインも美しいため、公家から武家、さらには庶民へと広まり、多くの人に愛される家紋となりました。それだけにバリエーションも多く、約百五十種類の藤紋があります。



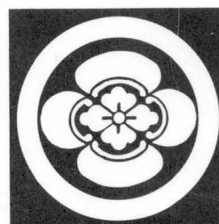
(藤紋の一例)
下がり藤

◆木瓜紋 (もっこうもん)

文様としては古く唐時代に用いられ我が国へ伝来しました。

木瓜と記しますので胡瓜の切り口を連想しますが、本来は樹上の鳥の巣を表現したものとされています。木瓜紋の古いものとされる徳大寺木瓜を見れば、それがよく分かります。この紋のなかに散らされた小さな花は鳥の卵のことをあらわしているようです。また多くの神社の御簾の帽額(もこう)に多く使われた文様であったので、もっこうと呼ばれるようになったと云います。

この紋は鳥の巣であり、卵が増えて子孫繁栄を意味し、また神社で用いる御簾は吉祥であるというところから、神の加護があるというめでたい紋とされ、織田信長を代表として家紋とした武家は多くあります。その幾何学的で図案化しやすい絵柄からも分かるように、大変バリエーションの多い紋です。



(木瓜紋の一例)
丸に木瓜